令和５年度　文部科学省・熊本県教育委員会指定
令和５年度　水俣市教育委員会指定

人権教育研究指定校

研究主題

自他を共感的に認め、主体的に学び続ける児童の育成

～一人一人が大切にされる人権尊重の精神に則（のっと）った教育活動を通して～

〒867-0034　熊本県水俣市袋１４１３番地
【TEL】　0966-63-4611　【FAX】　0966-63-4620
【URL】　https://es.higo.ed.jp/fukuroes/
【E-mail】　ms04@athena.ocn.ne.jp

熊本県水俣市立袋小学校

学校教育目標
夢に向かって挑戦し、自信と誇りをもつ子どもの育成

4つの「育てたい力」
★自分のことを自分で考え行動する力　★勉強の楽しさを感じ、自分で勉強する力
★自分を尊重し、自分と異なる多様な他者も尊重する力　★様々な問題を対話を通して解決する力

研究主題
自他を共感的に認め、主体的に学び続ける児童の育成
～一人一人が大切にされる人権尊重の精神に則（のっと）った教育活動を通して～

仮説1
全ての教育活動において「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けて取り組むことで、自他を認め、共感的に理解し、主体的に学び続ける意欲を持った児童が育つであろう。

取組①
「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けた日々の活動や学校行事等の計画と実施
全ての教育活動における「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の位置付けと、その振り返り

取組②
児童会活動の充実
児童が自らの力で問題解決を図る場の設定

取組③
学習環境や校内環境の整備
自他を尊重する心を育むような掲示物等の整備

仮説2
「人権が尊重される授業づくりの視点」を教科横断的に取り入れ、一人一人が大切にされた授業を行うことで、自分のよさが発揮されていることを実感し、友達のよさを認め、更に学び続けようとする児童が育つであろう。

取組
「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けた授業の実施

視点1　自己存在感を持たせる支援の工夫
児童が問いを持ち主体的に取り組むための課題設定の工夫や個に応じた適切な学習支援

視点2　共感的人間関係を育成する支援の工夫
多様な他者とともに取り組む「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」の実施

視点3　自己選択・決定の場の設定
児童一人一人の個性や興味に応じた学習の設定

「令和5年度芦北・水俣学力向上対策協議会提言書」に基づく重点実践事項

1—①　児童が楽しく、主体的に学ぶことができるよう、学習計画において個人に合わせた進度や方法で学習する場面を設定する。
1—③　チャレンジタイムを活用し、週に1回確認テストを行う。結果に応じて個別に指導し、定着を図る。
2—①　学習を通して自分の中で変化したことや、反省点、次回取り組みたいことなどを書く等、以後の学習にいかすための「振り返りの時間」を確保する。
2—③　学習内容や児童の特性に合わせ、有効な学習形態（個別学習や協働的な学習等）で課題解決を図る場面を設定する。

自己肯定感の向上　対話する力の向上　個別最適な学びの実現　協働的な学びの実現

人権教育を通じて育てたい資質・能力

自分の人権を守り、
他者の人権を守るための実践行動

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする
意識・意欲・態度

人権に関する知的理解 ⟷ 関連 ⟷ 人権感覚

本　校　が　重　視　す　る　資　質　・　能　力

【知識的側面】
ア　自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解

㋕気づいて行動
・自分のことを自分で考え行動する力
㋙進んで学ぶ
・勉強の楽しさを感じ自分で勉強する力

【価値的・態度的側面】
ク　自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
ケ　多様性に対する開かれた心と肯定的評価

�みみんなちがってみんないい
・自分を大切にし、自分と違う人も大切にする力

【技能的側面】
テ　対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能

㋩話して解決
・話合いで解決する力

㋕㋙�み㋩を
教室掲示

関連　関連　関連

育てたい資質・能力を児童向けにして、日々の活動や学校行事に位置付け

全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級

研究組織図

研究推進委員会
【校長、教頭、教務主任、研究主任、人権教育主任】

学習環境整備部会

【仮説１に関する内容】
・上記の資質・能力を位置付けた日々の活動や学校行事等の計画と実施
・児童会活動の充実
・学習環境や校内環境の整備

授業研究部会

【仮説２に関する内容】
「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けた授業の実施
視点１　自己存在感を持たせる支援の工夫
視点２　共感的人間関係を育成する支援の工夫
視点３　自己選択・決定の場の設定

「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けた授業の実施

1　「人権が尊重される授業づくりの視点」の整理

視点１「自己存在感を持たせる支援の工夫」
視点２「共感的人間関係を育成する支援の工夫」
視点３「自己選択・決定の場の設定」
の項目に分け、「具体的活動・留意点」を整理した。

視点３　自己選択・決定の場の設定

	ねらい	具体的活動・留意点
３－１	学習課題や計画を選択する機会を提供する。	①自分の関心や能力に合った目標（めあて）や計画を立てる機会を設定する。 ②学習の見通しを持って自ら計画をするため、ワークシートの活用などの支援を行う。
３－２	学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	①単元の終末等に、学習内容を示し、自分の習熟の度合いや興味・関心に応じてその中から選択し、実際に活動する場を設定する。 ②自分の興味・関心に応じてテーマを設定し、インターネットや本、インタビューなどの方法を選択してテーマに迫る活動の場を設定する。
３－３	学習方法を選択する機会を提供する。	①自分の習熟の度合いに応じて、具体物を使ったり図をかいたり、友達や先生からヒントを得たりと、学習課題に対しての取組方法を選べる場を設定する。
３－４	表現方法を選択する機会を提供する。	①自分の考えや学んだことを表現する場面において、大型テレビやタブレット等のＩＣＴ、黒板等での説明、新聞やポスターなどの中から選んで表現できる場を設定する。
３－５	学習形態や場を選択する機会を提供する。	①ペア学習、グループ学習、自由対話など、多様な学習形態を示し、児童が選んで活動できる場を設定する。 ②自分の設定したテーマや学習内容に応じて、活動内容や場所を選べる機会を設定する。
３－６	振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	①「今日分かったこと」「なぜ？と思ったこと」「これから生かしたいこと」などの振り返りの視点を設定し、その中から選択して振り返りを行い、互いに交流する時間を設定する。 ②学んだことの交流会などを設定し、互いに感想を伝え合う活動を設定する。 ③自らの選択について、その成果や課題について、振り返り、互いに交流する場を設定する。

2　学習構想案への位置付け

学習構想案に、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明記し、授業づくりを行った。

〈第６学年〉社会科「武士の世の中へ」

展開	３０分	②グループ学習 調べたことの共有をする。 ◇元寇は二度あった。 ◇元は爆発する武器を使っていた。 ◇勝ったけど武士の不満は募り、ご恩と奉公の関係がくずれてしまった。	○グループ活動の合間で適宜全体での学習を入れ、基礎的な知識の定着を図る。 ○調べる順序や調べ方などは児童に選択させるようにする。【授業づくりの視点３－５－①】
終末	５分	４　本時の振り返りをする。 ①本時で分かったことや考えたこと、今日の自分の学び方についての振り返りを書く。 ◇資料集で分からなかったことをインターネットで調べていくやり方は自分に合っていた。	○本時を振り返り、次時の学習に学びをつなげる。 ○どのような点に気を付けながら、今日の学習を行っていったかを問いかける。 【授業づくりの視点３－６－③】

３　授業実践

第１学年　体育科　ボールゲーム

本時の学習

（１）目標

ボールの種類や投げる場所を選び、ねらったところに、ボールを転がすことができる。

（２）人権が尊重される授業づくりの視点

３―３―①、１―１―②、３－６－③

成果

活動の途中でうまくいったことや難しかったことを出し合い、ボールや投げる距離を自分の目標に合わせて選ばせたことで、児童の意欲が高まった。振り返りでは、友達の選んだ学習方法のよいところを伝えたり、次の学習に向けて自分の学習を振り返ったりする姿が見られた。

まっすぐ転がすには、どのボールがよいかな。

〇〇さんが上手にできていたから、同じボールにしようかな。

第４学年　国語科　場面の様子をくらべて読み、感想を書こう「一つの花」

本時の学習

（１）目標

「一つの花」に込められた意味や思いについて文章をもとに考え、考えたことを共有することができる。

（２）人権が尊重される授業づくりの視点

１―１―③、２―１―②、２―２―③、３―６―①

成果

個人やグループなど学習形態を工夫して取り組ませたことで、一人一人が積極的に考えを深めることができた。その際、児童の思考過程や学習過程を認める声かけを行ったことで、児童の意欲が高まり、お互いの考えを認め合う雰囲気づくりにもつながった。グループや全体で協議する際に、「お～！」「なるほどね。」などの声が聞こえ、友達の考えに対して肯定的な反応をする姿が見られた。共感的人間関係の中で学習を進めることができた。

「一つの花」はお父さんのかわりなのだと思います。命と同じだと思います。

「一つの花」にはゆみ子へのメッセージが込められているんだね。

第６学年　社会科　武士の世の中へ

本時の学習

（１）目標

幕府が武士を動員し、元の攻撃を退けたことなどを調べることを通して、元の戦いの後、ご恩と奉公で結びついていた幕府と武士との主従関係がくずれていったことを理解できる。

（２）人権が尊重される授業づくりの視点

１―１―①、２―２―②、３―５―①、３―６―③

成果

導入部分で資料の見せ方を工夫したことで、児童は「どうやって元を退けることができたのだろう」や「退けたのに、なぜ幕府は倒れたのだろう」という問いを持つことができた。また、学習方法を自分で選択させるようにしたことで、自分のペースで黙々と学習したり、グループで友達と話し合いながらいきいきと学習したりする姿が見られた。

友達と一緒に資料集を見て考えることで、理解がより深まりました。

調べ方が分からないときに、隣の友達が教えてくれてうれしかったです。

人権に関する学校行事

人権集会

知識的側面　ア・ウ
価値的・態度的側面　ク

人権集会では、児童会がいじめに関する寸劇や「子どもの権利条約」についての発表をした。自他の人権の大切さや人権を守る行動について、身近なこととして考えることができた。また、校長から「命の大切さ」についての話があり、自分や他の人たちをかけがえのない存在として捉え、自分の命はもちろんのこと、他の人の命も大切にしようとする心情を高めた。

人権宣言

技能的側面　テ
価値的・態度的側面　シ

各学級で人権学習をした後、学んだことを日頃の生活にもいかすために、学級ごとにクラスの人権宣言を立てている。掲示することで、児童が自分の行動を振り返り、人権を意識した生活ができるようにしている。

人権講演会

知識的側面　エ・オ

ＮＰＯ法人トナリビトの山下祈恵氏を講師に招き、子どもの人権についての職員研修を行った。子どもの声を聴くことの大切さに気付かされ、学校生活や授業の中での具体的な取組について、職員間で共有することができた。

幼・保等、小、中や地域と連携した学校行事

幼・保等、小、中連携行事

価値的・態度的側面　ケ

夏休み中に、中学生に来てもらい、夏休みの宿題や苦手な学習を進める「サマースクール」を実施した。児童の学習意欲は高まり、中学生は児童に分かりやすく説明するために言葉を工夫するなど、お互いによい影響を与え合った。本物に触れる演奏会やバレエ鑑賞などの行事を、校区の幼・保等、小、中が一堂に会して実施した。

校区懇談会

価値的・態度的側面　ス

いつもお世話になっている地域の方の自己紹介や話を聞き、顔見知りになることで、地域の一員として、地域のために行動しようとする態度を身に付けることができた。

教職員の保育体験

価値的・態度的側面　ケ

地域にある保育園・こども園で、園児との触れ合いや保育士の方々との交流を目的に教職員による保育体験を行っている。

地域のボランティアによる読み聞かせ

価値的・態度的側面　カ

地域のボランティア（ドリームキャッチャー）による読み聞かせを実施している。地域の方との温かい交流を通して、自分やまわりの人たちの大切さに気付く時間となっている。

「火のまつり」への参加

技能的側面　セ
価値的・態度的側面　コ

地域の行事である「火のまつり」に４・５年生の児童が参加し、「２００１・水俣ハイヤ節」を奉納踊りとして披露した。生命を大切にする祈りを込め、踊ることができた。

人権教育を通じて育てたい資質・能力に関するその他の学校行事

あいさつ運動

技能的側面　チ

児童会や生活委員会が主催し、朝のあいさつ運動を実施している。児童の自信につながるよう、あいさつの上手な児童は放送で紹介したり、賞状を渡したりしている。

縦割り掃除

技能的側面　チ

毎日の掃除を１年生から６年生までの異年齢集団で実施している。反省会では、それぞれが頑張ったところを認め合うほか、改善したいところを出し合い、次回につなげている。

サラ玉収穫

技能的側面　タ

冬に植え付けたサラダ玉ねぎを、１・６年、２・５年、３・４年の３つの集団で収穫している。上級生は、下級生を見守り、うまくできるよう支援している。

胎児性水俣病患者さんとの交流

知識的側面　エ
技能的側面　ソ

胎児性水俣病患者さんとの交流を深めている。患者さんの育ちや思いについて話を聞き、つらかったことなど学んできた。また、明るく前向きに生きる姿に共感することができた。

思いを知る会、「２００１・水俣ハイヤ節」

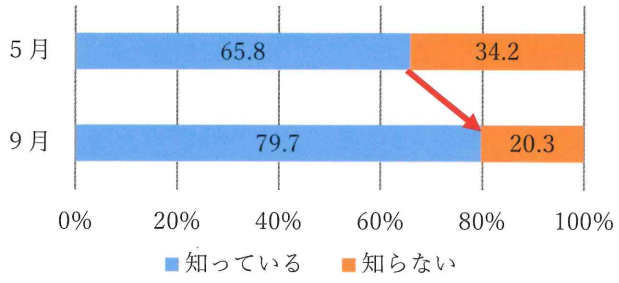
知識的側面　エ
技能的側面　セ・ツ
価値的・態度的側面　コ・サ

思いを知る会では「２００１・水俣ハイヤ節」に込められた制作者や患者さんたちの思いを聞き、その思いを受け継ぎ、１００年続く踊りとして継承しようとしている。また、思いを込めて「２００１・水俣ハイヤ節」を踊ることは、水俣病の患者さんやその家族の方の思いに触れ、水俣病への理解を深めることにつながっている。袋っ子体育フェスティバルでは全校児童で踊っている。

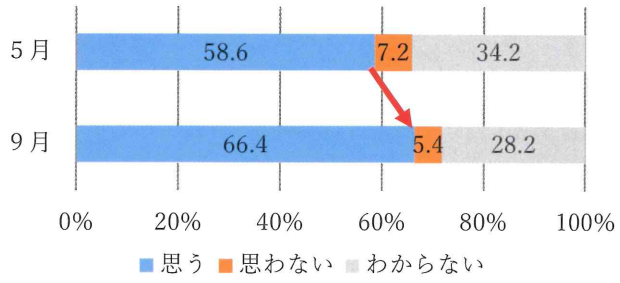
研究の成果と課題

「仮説１」に関するアンケートの結果推移（１年～６年）

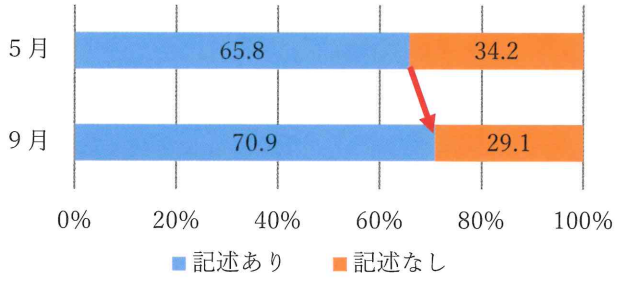
「すべての人が大切にされなければいけない」という決まりがあることを知っていますか。



よく話をする人だけでなく、クラスの全員を大切にしていると思いますか。



自分のよいところを３つまで書いてください。

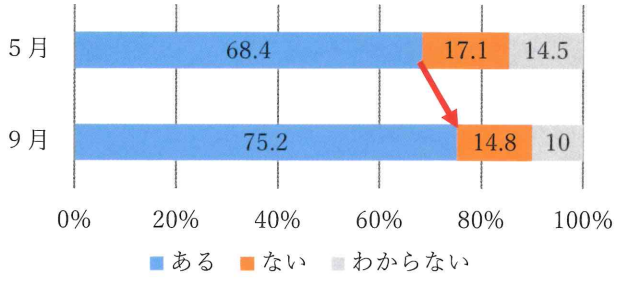


成果と課題

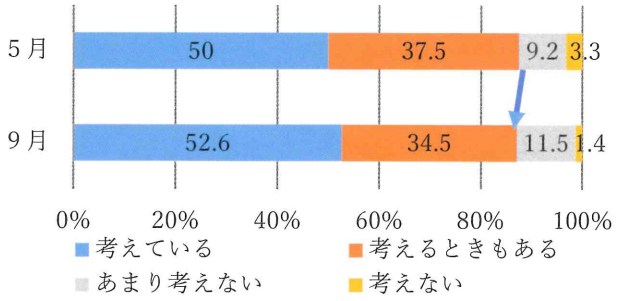
仮説１に関する取組を行うことで、「自他を大切にしなければならないことを知っている」という知識的側面や、「積極的にクラスの友達を大切にする」といった技能的側面に伸びが見られる。また、本校の課題であった児童の自己肯定感についても、自分のよいところを書けている児童が増えていることから、改善傾向にあることがわかる。しかし、自分のよいところを書けない児童が30%近くいる状況である。引き続き、自己肯定感を高められるような取組を続けていく必要がある。

「仮説２」に関するアンケートの結果推移（１年～６年）

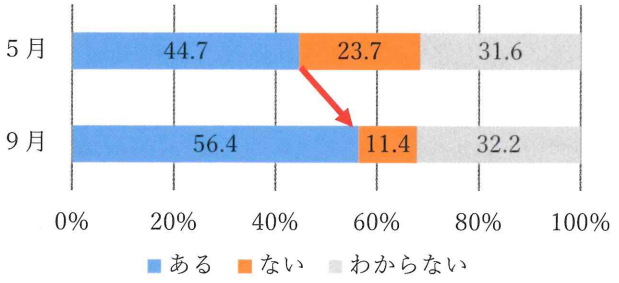
授業で「やってみたい」「考えてみたい」「おもしろい」という気持ちがおきますか。



自分と友達の意見が違うとき、友達の気持ちも考えていますか。



授業の中で、自分で選んだり、決めたりして行う学習がありますか。



成果と課題

仮説2に関する取組を行うことで、主体的に授業に臨む児童が増えてきている。その一因として、授業の中で自己選択・決定する場面が増加したことが考えられる。児童からは「自分で問いを立てて、勉強していくのは楽しい」や「自分に合ったやり方で勉強することができた」など肯定的な意見が多く聞かれた。しかし、「自分と友達の意見が違うとき、友達の気持ちも考えているか」という項目に対しては、5月に比べ、否定的な回答が微増している。共感的な人間関係を育成するような取組をさらに取り入れ、今後も児童の成長を人権教育の視点に沿いながら支援していきたい。